

視 察 研 修 等 報 告 書



令和7年7月16日

坂井市議会

議 長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 チャレンジさかい

報 告 者 三宅小百合

1. 日 時

令和7年7月11日（金）

2. 視察・研修先

ひだホテルプラザ 岐阜県高山市花岡町2丁目60番地

3. 視察研修内容

地方創生セミナー

4. 参加者

三宅小百合

5. 内容詳細

【13:00-13:50】基調講演-1 高山市市長

【13:50-14:30】基調講演-2 （株）瀬戸内ブランドコーポレーション

取締役投資事業本部長 井坂晋氏

<地域価値の最大化に向け「せとうちエリア」の取り組みと高山地区の可能性>

【15:10-15:40】インバウンド対応（医療サポート）の課題に対するソリューション

エムスリーキャリア（株）

【セミナー】

基調講演1 高山市長

商社の日邦産業株式会社勤務を経て、1987年に高山市役所に入庁、企画部長や海外戦略部長を務め、2021年に市役所を定年退職し、同年4月にインバウンド誘客事業を手がける旅行会社「シージェット」を立ち上げたほか、2022年5月からは飛騨・高山観光コンベンション協会専務理事を務めた。

年間 77 万人のインバウンドが高山市に来る要因は、1937 年に英語の観光パンフレットができたことから分かるように民間の力が大きい。そして 1986 年に国際観光モデル地区に指定され、市が腹を括って取り組んできた。観光にかかる予算は 17%ほどであるが、40 年以上にわたる取り組みと民間の力によりインバウンド 77 万人・リピート率 60%となっている。特にリピート率 60%は市民のコミュニケーション力によるものである。アンケート結果などからも、市民と気軽に交流ができることが魅力になっている。

オーバーツーリズム対策として、今年の春節前に「with Respect」を作成した。内容は「・Care for Locals, Environment and Tradition: 地元の人、環境、そして伝統を大切にすること。・Walk Mindfully: 周りに配慮し、譲り合って歩くこと。・Carry Your Trash: ごみは持ち帰ることで町を清潔に保つこと。・Stay Quiet: 夜間は近隣住民のために静かに過ごすこと。」と記載したチラシ・ポスターを配布・掲示をした。

基調講演 2

(株) 瀬戸内ブランドコーポレーション 取締役投資事業本部長 井坂晋氏

<地域価値の最大化に向け「せとうちエリア」の取り組みと高山地区の可能性>

2013 年に瀬戸内海を囲む 7 県（兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県）が合同してせとうち全体の観光ブランド化を推進するための「瀬戸内ブランド推進連合」が結成され、せとうち全体での観光マーケティング・プロダクト開発を推進してきたが、これをさらに世界に比肩できる持続可能な観光地経営を目指すフロントランナーとして新たに創設されたのが「せとうち DMO」である。元銀行マンが中心となり『せとうち観光活性化ファンド』を活用してプロダクト開発支援を行う株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションで構成され、瀬戸内が有する幅広い観光資源を最大限活用しながら、多様な関係者とともに情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等を行っている。海外の DMO とも肩を並べる国内 DMO のトップランナーである。

*インバウンド対応（医療サポート）の課題に対するソリューション

エムスリーキャリア (株)

パンフレットの設置だけで、24 時間体制でドクターと繋がるオンラインサービスを提供できるサービスを展開している。最短 1 分、平均 5 分でドクターと繋がる日本最大手のオンラインサービスである。医療機関に専門用語を翻訳できる機器を設置しなくても、ホテル等にパンフレットを置くだけでインバウンドに対応した医療サービスを提供できる安心なサービスである。

6. 所感・感想

高山市では、年間 77 万人ものインバウンド観光客が訪れる中、1937 年に英語パンフレットを制作し、すでに当時から外国人観光客への対応を始めていた。その後、1986 年には国際観光モデル地区に指定され、本格的なインバウンド政策がスタートした。現在に至るまで約 40 年間、地域ぐるみの継続的な努力を重ねてきたことが大きな成果となっている。中でも、市民の協力とおもてなしが非常に重要な役割を果たしており、訪問者との交流が観光の魅力の一つとなっている。セミナーの締めくくりでは、富裕層向けインバウンド旅行会社の取締役より、来てほしい国の言語での情報発信が最も重要という指摘があった。現在、本市では DMO さかいにて外国人スタッフを雇用して半年が経過したばかりで、まだ情報発信の面では十分な体制が整っているとは言えないため、今後、DMO さかいだけでなく、市民や旅行者による口コミ投稿が増える工夫や整備も必要である。

7. 添付書類

